

第16回ユネスコスクール全国大会 分科会詳細

第1分科会 持続可能なESDの取組のための外部支援の活用に向けて

—ASPUnivNet × ESD 活動支援センター × ESD コンソーシアム等による学校支援の構築—

- **開催形式**
 - ハイブリッド（対面会場：国際交流棟 レセプションホール）
- **運営担当**
 - ASPUnivNet 運営委員会
- **登壇者**

<ul style="list-style-type: none"> - 奈良教育大学 及川幸彦 - 創価大学 関田一彦 - 福岡教育大学 石丸哲史 - 琉球大学 大島順子 - 玉川大学 小林亮 - 東京都立山崎高等学校 町谷光博 - 大阪公立大学 伊井直比呂 	<ul style="list-style-type: none"> - 大阪府立佐野高等学校 向井小雪 - 奈良教育大学ユネスコクラブ 苗代昇妥、木幡美幸、吉岡優来 - 練馬区立中村中学校 清水啓子 - ESD 活動支援センター 加藤超大 - 北陸 ESD コンソーシアム 池端弘久 - 日本ユネスコ協会連盟 安田昌則
---	--
- **概要**

ユネスコスクール等の学校の ESD の更なる実践の質の向上と取組の持続発展を図るために、「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）」の支援機能を可視化するとともに、ESD 活動支援センターや ESD コンソーシアム、日本ユネスコ協会連盟等の ESD ネットワークとの連携・協働による学校支援の更なる深化と拡充について検討し、ESD のスタートアップ校や推進上の課題を抱える学校、取組のさらなる持続発展をめざす学校など、それぞれの学校の ESD の進捗状況や推進体制に応じた外部支援ネットワークの効果的な活用について展望し、学校を核とした多様な主体による ESD 推進のプラットフォーム構築をめざす。

第2分科会

集まれ！ユース！！

—共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップ—

- **開催形式**
 - ハイブリッド（対面会場：国際交流棟 第1ミーティングルーム）
- **運営担当**
 - 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）国際教育交流部
- **登壇者**

<ul style="list-style-type: none"> - 名古屋経済大学市邨高等学校 生徒 3 名 - 神奈川県立横浜国際高等学校 生徒 1 名 	<ul style="list-style-type: none"> - 株式会社ファーストリテイリング 山口由希子
--	---
- **概要**

本プログラムは、名古屋経済大学市邨高等学校における共生社会の実現に向けた実践事例についての紹介、そして共生について参加者の皆様と考えるグループディスカッションで構成されている。ファシリテーターとして、名古屋経済大学市邨高等学校の生徒3名、ACCUで今年8月～9月に実施したアジア太平洋地域5ヶ国の高校生を対象とした国際協働学習事業「BRIDGE Across Asia Conference 2024」の参加者1名（高校生）が登壇する。当日は難民支援などを切り口に、今私たちにできることや、より良い社会・未来を切り開くためのアクションプランを検討する。

第3分科会

社会との相互作用を通して創る探究の学び

—「できない理由」から「できる方法」を若手教員と考えるワークショップ—

- **開催形式**
 - 対面のみ（会場：センター棟 109室）
- **運営担当**
 - ESD日本ユース／(公財)五井平和財団
- **登壇者**
 - 麗澤中学・高等学校 瀧村尚也
 - 城西大学附属城西中学・高等学校 釜付祐也
 - 大分大学 河野晋也
- **概要**

これからの学校教育では、一人ひとりの子どもが、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」に必要な力を育むことが目指されている。社会の担い手としての学びを支援するには学校を飛び出し、多様なステークホルダーと出会っていくことが不可欠だと考える。今回は、地域や学校でESDの次世代リーダーとして活躍する「ESD日本ユース」の探究学習や産官学民プロジェクトの活動事例をもとに、各学校の先生が抱える「できない理由」から、様々な視点で「できる方法」を共に考え、どのようにして実現できるかを探る。新しい学びを創る上で欠かすことができない、世代を超えた対話を行いながら、若手教員と中堅世代で共に考えるワークショップ。

第4分科会

ESDが拓く社会

—ESD大賞がもたらすもの 受賞校の事例から—

- **開催形式**
 - ハイブリッド（対面会場：センター棟 503室及び510室）
- **運営担当**
 - NPO法人 日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム
- **登壇者**
 - 湘南学園 住田昌治
 - 勝山市立成器南小学校 齋藤英市
 - NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム
 - 宮城県仙台第三高等学校 渡部敦
 - 岡山慶子
 - 東京工科大学 山下俊

- ネスレ日本株式会社 山口恵佑

- 仙台ユネスコ協会 見上一幸

■ **概要**

ESD は、教育現場だけで完結するものではない。培った考え方や経験は、大学での研究や企業活動でもいかされ、持続可能な社会に貢献すると同時に、子どもたちそれぞれの強みとなる。ESD 大賞は、先生にとって活動の方向性の確認となり、活動が地域に開かれることで、企業や地域住民、先生以外の大人との関わりを生み、児童生徒の変容をもたらす。本分科会では、ESD 大賞受賞校が発表し、子どもの成長、地域との関わりなど実例を示す。さらに、高校と社会の橋渡し役である大学の立場から東京工科大学、ESD を基盤としたサステナビリティの取り組みなど企業の立場からネスレ日本株式会社が登壇。ESD が拓く社会について多視点から語る。

第 5 分科会

国際交流・国際協働学習を創造できる教職員

—NEXT GIGA を活かして—

■ **開催形式**

- ハイブリッド（対面会場：センター棟 310 室）

■ **運営担当**

- ESD 実践者・ユネスコスクール教員等

■ **登壇者**

- NPO 法人みずすまし 武田國宏

- 東京都板橋区立緑小学校 市之瀬輝明

- 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
藤原敏晃、木村明子

- NPO 法人 JEARN 栗田智子

■ **概要**

本分科会は、多様性と共生の未来へ貢献するため、ユネスコスクールの教育活動をよりグローバルな視点から発展させるために開催する。国際交流・国際協働学習の Good Practice（昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、東京都板橋区立緑小学校）を共有し、グローバルな視点から持続可能な社会づくりに貢献できる教職員、園児・児童・生徒の育成の重要性を考える。NPO 法人 JEARN から国際協働学習のコンセプト、実現までのプロセス・コツ、具体的な実践事例について学ぶ。さらに、参加者の学校等で国際交流・国際協働学習を実践するための「成功体験、困っている事・不安の共有」、そして、「何を、どのように改善、準備すれば可能になるのか」ワークショップを通して考える。

第 6 分科会

—Act locally—

学校と地域をつないだ ESD 展開を一緒に考えましょう！

■ **開催形式**

- ハイブリッド（対面会場：国際交流棟 第 2 ミーティングルーム）

■ **運営担当**

- ESD 実践者・ユネスコスクール教員等

- **登壇者**

- かながわユネスコスクールネットワーク（KAN） 望月浩明
- 気仙沼市・宮城教育大学連携センター 浅野亮
- 豊橋市立八町小学校 山本武志
- 柏ユネスコ協会 鈴木郁香

- **概要**

本大会のテーマは「社会に開かれたユネスコスクール ―多様性と共生への貢献―」であり、本分科会は「ユネスコ」でつながる「地域連携」をテーマとしている。ユネスコスクール活動は学校内での活動はもちろんだが、地域とのかかわりや連携も重要なポイントになっている。しかし、地域の多様なステークホルダーと、どのようなかたちで連携を進めたらよいか。そのテーマは、糸口は、関係づくりは、などについてユネスコスクールの立場から、教育行政・研究機関の立場から、そして地域団体の立場から話題提供を頂き、それを受けて参加者のみなさんとお互いにとってどうしたら Win-Win の良好な関係を築くことができるかを考えてゆきたい。教育関係者、地域で活動する個人、団体の皆さんの参加をお待ちしています。